

3) 恵我小学校・恵我南小学校

2007年度「あいあいタイム」プログラム(1学期)

		恵我小	恵我南小
1年	ともだちのことをしろう！！！	いっしょにあそぼ！	
	1h あなたとわたしはぴったんこ	1h み～んな、あったかいね	
	2h ひらがなびんご！	2h なべなべ大作戦！！	
2年	3h いっしょに あそぼう	3h すきなもの、おしえて フルーツバスケット・いすとりゲーム	
	話し上手、聞き上手になろう	友だちっていいな	
	1h 友だちの声をよく聞こう 「牧場の動物たち」	1h み～んな、あったかいんや	
3年	2h 友だちにはっきりと話そう 「オオカミがきた！！」	2h こんなときって なんていう？	
	3h 友だちに伝わる声で話そう、 聞こう。「おおあらし」		
4年	気持ちを 分かろう	心をあわせて 挑戦だ！	
	1h しっかり見て！どこが違うの	1h みんな兄弟3年1組	
	2h 気持ち言葉を見つける！	2h 心と手をつないで	
5年	3h カードで ドン！	3h 力をあわせて もとに戻せ	
	友だちと協力してがんばりきろう！	自分を知ろう、友だちを知ろう	
	1h かくれているのはだあ～れ？	1h 手のひらいっぱいメッセージ 「友だちふやそう」アンケート	
6年	2h あっちはどっち？手足はどこ？	2h 「それは、どんなとき？」	
	3h 力を合わせて、 上手につめてね！	3h 自己紹介 PRカード・発表	
		4h 「友だち紹介」 インタビュー・練習・交流	
5年	あたたかい言葉かけにチャレンジ！	自分たちの班づくり	
	1h ふわふわ言葉とちくちく言葉	1h 「サイコロトーク」	
	2h 「がんばった友達に対して」 「困っている友達に対して」	2h いいところさがし	
	3h 「助けてくれた友達に対して」 「こんなときどうする？」	3h 新聞ジグソー	
		林間成功大作戦	
6年	みんなで協力、一つの「わ」になろう！	友だちのことを見つめよう	
	1h パス & キャッチ	1h すごろくトーキング	
	2h 新聞ピリビリ	2h どの がいっぱい	
	3h 文字を探して言葉(文章)をつくろう	3h トラストアップ	
		4h 自分の友だちへのかかわり方を見つめよう	

2007年度 「あいあいタイム」プログラム(2学期)

恵我小		恵我南小
1年	ともだちとなかよくなろう	きもちのいろいろしりたいな
	1h あいさつリレー	なかまあつまれ
	2h こんなときって なんていう？	みんなであそぼ！
	3h ことばのぴったんこゲーム	2h ことばのジグソーパズル ～さそい方・きき方・こたえ方～
		1h・3h いっしょに あそぼ！
2年	いっしょにあそぼう ～すすんで、友達を誘って一緒に楽しもう～	いいとこいっぽい 見つけた
	1h 二人組ごちゃまぜ大あらしをしよう	1h あいあいキャッチボール
	2h いっしょにあそぼう	2h I相見つけた
	3h なかまにいれて	3h みんなで わくぐり
	4h 楽しくあそぼう	4h バースデーチェーン
3年		5h なかよしあく手
	気持ちを 伝え合おう	イライラ解決大作戦
	1h 気持ち! すなおに	1h いろんな気持ちを見つけよう
	2h 怒りをよく知ろう!(怒りもだいじな気持ち)	2h イライラを知ろう
	3h 気持ちコントロール(怒りの対処法)	3h イライラのコントロール
4年	4h いやといって いいんだよ	4h なかまになろう
	言いたいことを伝えよう	友だちとのつながり方を見つめよう
	1h 友達の名前で言葉探し ～友達にがんばって声をかけよう～	1h ごめんねbingo
	2h 私の仲間はどこにいるの？ ～友達にがんばって声をかけよう～	2h ありがとうbingo
	3h お話つなげね ～友達の伝えたいことをしっかり聞こう～	3h 約束アンケート
5年	4h こんな時に、どんな気持ち？ ～自分の気持ちを伝えよう～	4h 友だちとの約束
	わたし発見! 友だち発見!	ふれあいあい・お話あいあい・信じあいあい
	1h ご注文はどっち？	冒険あいあい
	2h もしも だったら	1h 無人島へいこう
	3h わたしのミカタ	2h 無人島へいこう
6年	4h 自己PR大作戦!	3h 無人島伝説
	相手の心を受け止め、お互いにわかり合うために	自分をふり返り、伝え方を工夫しよう
	1h このボールどう受け取る(気持ちの聞き方)	1h イライラに気づこう
	2h うまく伝えられるかな？	2h ストレスの構造を知ろう
	3h 心の中をそっとのぞいてみよう	3h ストレス対処の方法を考えよう
		4h 友だちとの関わり方

2007年度 「あいあいタイム」プログラム(3学期)

	恵我小	恵我南小
1年	みんなで力を合わせよう！ 1h セーの！ 2h おとしないでね 3h おちるな おちるな 4h 宝物を見つけよう！	さきかた名人になろう！ 1h 上手な話のさきかた 2h 朝のスピーチしっかり受けたかな 3h まねっこ あてっこ
	自分大すき、友だち大すき ～自分や友だちのいいところを見つけよう～	自分の気持ちを相手に伝えよう
	1h みんな、あのね 2h 心のオニさがし 3h それがあなたの、いいところ	1h いっぱい言葉を伝えよう 2h 身振りで言葉(気持ち)を伝えよう 3h 必要な言葉を伝えよう 4h 必要な言葉を伝えよう
	気持ちで つながろう 1h ちがったらあかんの！ 2h 友だちルポライター 3h 自分アピール 4h うれしい温度計	ホッとな関係をつくろうよ 1h わたし大好き 2h Goodカード(ひとことキャッチ) 3h あったかい言葉かけ 4h 1メッセージで伝えよう
4年	伝え合おう、つながろう 1h みんなが言葉で伝えて伝えて作れるよ ～言葉で伝えることの大切さに気づこう～	相手の気持ちも自分の気持ちもスッキリ 1h 見のがすな！聞き手のNGサイン
	2h 感情って複雑だね！ ～感情の違いに気づこう～	2h 頭にきたときにお得な切り札
	3h スパイダーネット ～クラスみんなでつながろう～	3h カードを使って仲直り
	4h グループワーク 「手のひらいっぱいメッセージ」	4h プレイバック会議
	ストレスなんてこわくない！ 1h 仲間はずし	つながりあいあい わきあいあい 1h 今、こんな気持ち
5年	2h ストレスってなんだろう 3h ストレスとうまくつきあおう 4h ストレスに負けない自分にしよう 5h 上手な断り方	2h 私を変える方法 3h 私を変える方法 4h 見方を変えると 5h こんなときどうする？
	お互いを分かり合うために 1h わたしはだあれ	いろんな見方・いろんな声かけ 1h 言葉ひとつで大ちがい
	2h にんげんコピー 3h 4つ葉のクローバー	2h 表現ひとつで大ちがい 3h 信じるって、ステキ
		4h ありがとうを忘れない

5. いじめ未然防止・不登校生支援の取組

1) 松原第七中学校

いじめ防止の取組

ほっとアンケート
『ほっ！』ができる学校をみんなの力で

2学期が始まっています。みなさんのこころとこれからは元気ですか。10月に担任の先生と2者懇談をします。短い時間ですが『勉強』『友だち』や家庭生活のことについて話をし、あなたの学校生活を豊かなにしていきたいと考えています。あなたの最近の様子を教えてください。

あてはまるところに○をしてください。

	4 あ て は ま る	3 少 し あ て は ま る	2 少 し あ て は ま ら な い	1 あ て は ま ら な い
1 朝、気持ちよく起きられる	4	3	2	1
2 頭やお腹が痛くなることがある	4	3	2	1
3 ごはんをおいしく食べている	4	3	2	1
4 ちょっとしたことでイライラする	4	3	2	1
5 学校でイヤだなあと思うことがある	4	3	2	1
6 自分の気持ちを話せる友だちがいる	4	3	2	1
7 友だちにイヤなことをされる（言われる）	4	3	2	1
8 勉強がわからなくて困っている	4	3	2	1
9 夜、ぐっすり眠れる	4	3	2	1
10 学校に行きたくないと思ったことがある	4	3	2	1

11 自分や自分の周りの人で、気になることがあれば書いてください。

上のような、アンケートを実施し、子どもたちの状況を把握した上で、毎年行っている担任と子どもによる「二者懇談」を1週間かけて実施した。子どもの心の状況や友人関係などについて困っていることや悩んでいることを話題にした。3年生は「進路選択・決定」の不安などを聞き、自分の将来についてのアドバイス等を担任は行った。1・2年生では、学校生活での友だち関係などが主なテーマであった。また、家庭学習の方法など指導をした。

もちろん、「いじめ」による被害についても聞き、子どもたちに、いじめを許さない・なくすという「いじめ」への学校・教師の姿勢を明確にすることことができた。

不登校生への支援

本校の不登校の課題は大きい。

この現状に対して、従来から担任を中心として、クラスの仲間の誘いかけ、家庭訪問や仲間づくりのイベント（ミニボーリング大会、花火をして遊ぶ会、クッキーをつくる会等）、保健室や別室での指導など、さまざまな方法で取組を進めてきた。

そのような取組の中で、学校復帰を果たした子どもたちもいる。しかし、現実には、担任や養護教諭、学年といった限られた範囲での取組になっており、学校全体の取組にしていくことが課題であった。

不登校生への取組について話し合う会議として、2003年度から週1回の不登校生等支援会議、月1回の全体会議を設置した。これらの会議は、不登校生への取組にしぼった話し合いをする会議であるが、これ以外でも、『不登校は人権課題であり、進路の課題である』という共通認識のもと、学習活動部会、人権・同和教育部会、生徒指導部会の3つの専門部会でもそれぞれの観点から不登校生らへの支援について話し合うことにした。

さらに、不登校生が学級復帰に至る過程での居場所として、不登校生のための部屋＝「ほっとスペース」を設置し、家庭と学校を結ぶ拠点として位置づけた。

以下、不登校生への取組を詳述していく。

a) 不登校生等支援会議（週1回）

構成

研究主任、こども支援コーディネーター、生徒指導主事、教務担当、人権・同和教育担当、養護教諭、学年代表、スクールカウンセラー、管理職、教育アドバイザー

役割

- ・不登校生の現状と課題の把握
- ・『こころプロジェクト』の企画・運営
- ・関係諸機関との連携
- ・不登校予防と復帰のマニュアルづくり
- ・研修
- ・不登校生への具体的な取組
『ほっとスペース』活用、学習支援、体験活動
- ・不登校生ケース会議
- ・松原市不登校児童・生徒等総合支援会議との連携
- ・松原市要保護児童対策地域協議会

今まで学級・学年単位で取り組まれていた不登校生の支援を、学校全体で考えていくための会議として位置づける。毎週1回、欠席の多い子どもたち一人ひとりについて、状況を交流しながら、学校復帰にむけての手立てや関係諸機関との連携などを検討し、学校全体に不登校生や配慮を必要とする子どもたちにかかわる課題を提起する会議として活動を進める。

b) こころプロジェクト（月1回 職員会議の中で）

構成

教職員全員

〔人間関係学科の開発にむけて〕

- ・子どもたちの実態分析
- ・人間関係学科のカリキュラム作成
- ・各学年の人間関係学科の交流
- ・多様な学習方法の研究・研修と試行
- ・子どもが相談しやすい環境づくり

〔不登校生への体験・学習支援にむけて〕

- ・不登校生の現状と課題の交流
- ・不登校生への支援体制づくり
- ・ほっとスペースの運用の研究
- ・保護者支援
- ・欠席がちな子どもの早期発見、早期対応

不登校生等支援会議からの提起を受け、学校全体で不登校生一人ひとりについて論議する会議である。不登校生の状況を全員で確認することで、不登校生の課題を共通認識する。

また、各学年の人間関係学科の交流も行っており、学校全体として不登校の予防と支援を考える場とする。

c) ほっとスペースでの取組

ほっとスペースとは

- ・不登校状態で、家にこもりがちな子どもたちが登校した時に学習できる部屋
- ・子どもたち一人ひとりに応じた学習を支援する部屋
- ・引きこもり傾向にある不登校生が、ほっとして学習や体験活動ができる部屋
- ・研究主任が運営面での原案を出し、不登校生等支援会議で検討し、運営していく

ほっとスペースのあり方

- ・本人の様子と気持ちを第一に
- ・当面、他の子どもたちとの接触は避ける
カーテンを閉める
不登校生の在室時は室内から施錠できる
教員が入室する場合は、ノックして名前を伝えてから
- ・どんな学習をするかは、本人と相談しながら
- ・子どもたちが選択して取り組めるように、多様な教材を準備しておく
情報機器（PC、スキャナー、プリンター）
テレビ、ビデオ
調理器具類、ゲーム類、パズル類
- ・担当は
研究主任、養護教諭、生徒指導主事

学年教員、スクールカウンセラー

スクールソポーター 等々

d) 2003年度から2005年度の取組から

本校での学校復帰をめざした「不登校生への支援」を取組から以下のように総括した。

(1)学校の変化を

- ・意識の変化 「対策」「支援」
- ・人権教育としての不登校児童生徒の支援
- ・アセスメント（見極め）
- ・「病気による欠席」へのメス
- ・不登校児童生徒への取組が学校教育全体への見直しへつながる

(2)広がりと深まりを

- ・担任 学年・学校
- ・学校 小・中の連携、関係諸機関（松原市子育て支援課・子ども家庭センター・少年サポートセンター等）
- ・校内不登校生等支援会議 組織の整備

不登校の課題は、人権課題であり、進路の課題であること

原因追及ではなく支援へ

欠席・遅刻等の出席状況のデータを蓄積して状況分析を

チームで対応 = 複数のサポート

保護者への支援

校内不登校生等支援会議の重要性

校区小学校や関係諸機関との支援ネットワーク

累積欠席日数10日を契機とした取組

長期休業中の取組

自己肯定感、社会的有用感を育てる

A 小中の連携の深化へ…未然防止は早期発見 欠席10～30日の子どもに焦点をあてた引き継ぎ

「あそび・非行型」の子どものきょうだい関係

校区の小中の合同支援会議の実施（年2回
3学期と夏休み）

B 未然防止！ そのために

子どもが来たくなる学校こそ、最大の未然防止・・・受容的・人権の学校
集団づくりの再生へ

早期発見早期対応は未然防止のポイント
欠席理由の明確でない子の把握を

C 保護者のソーシャルサポート

e) あそび・非行型の不登校生への取組

昨年度、深夜徘徊・喫煙・飲酒・窃盗等で不登校傾向になった小学生への支援の方向性を探るケース会議を行った。松原市教育委員会、松原市子育て支援課、富田林子ども家庭センター（児童相談所）、少年サポートセンター、小中学校教員の参加のもと、様々な検討を行った。本校に入学後、1学期当初は、学級・学校内で居場所づくりをめざし成果があったが、他校生とのつながりと無断外泊があり、6月は欠席が大幅に増加した。現在、定期的にケース会議を行っている。

2) 恵我小学校

いじめへの対応

児童 A への取組

非掲載

児童 B、C への取組

非掲載

不登校生への支援

全体的な特徴として、家庭の中で複雑な状況に置かれている子どもが多い事や、きょうだい関係で名前があがることが多い。中でも 2007 年度支援会議でも特に議論をした 3 人の児童についての個別の対応状況を例にあげる。

A と B は兄妹である。複雑な家庭環境もあり、家庭への支援が必要である。

非掲載

C については、2007 年度より気になる子どもとして状況の把握をおこなっている。

非掲載

今後に向けて

いじめ防止については、先述した学級担任や学年・学校としての取組を今後も大切にするとともに、「そんなことしたらだめ」とか、「なんでそんなことを言うの」などの子ども自らが立ち上がる子どものエンパワーアーを出せる指導を充実していきたい。

不登校生への支援に取り組んでいく時、200

6 年度より年間欠席 10 日を一つの基準にしたことで、様々な気づきをもつことができた。年間 30 日では対象となる子どもも少なく、深刻なケース以外把握しにくい。そのため教職員の中にも課題が認識されにくい状況があった。10 日とすることによって、欠席状況の細かなチェックが必要となり、子どもの状況を意識できるようになつた。また、そのことで支援のあり方が鮮明になった。生活指導報告会で報告されたいじめに関わる事例において、年間欠席 10 日以上の子どもがその対象の中にいた。その子どもの実態、状況を細やかに把握することの大切さを再認識させられた。学級・学年での様子や家庭での様子などで、気になる事象がないのか子どもの様子を見守り、情報収集を続けていく事が大事であり、そのことを次年度に具体的に引き継いでいきたい。

3) 恵我南小学校

いじめへの対応

児童 A への取組

・ クラス編成などで A が不安にならないような配慮をしていた。

非掲載

児童 B への取組

・ 4 人で遊んでいた時、C から B の携帯電話に遊べるかどうかという内容のメールが届く。

非掲載

不登校生への支援

児童 D への支援

・ D は、学習には意欲的で理解力もあり、登校すれば仲間ともよく遊ぶ。

非掲載

児童 E への支援

・ E は、母親の再婚・出産をきっかけに、家庭での自分の居場所に不安や悩みを抱えるようになり、

非掲載

今後に向けて

不登校児童とその保護者の現状を確認し、当面

の課題を明らかにする。そして不登校児童とその保護者への取組や具体的な支援内容を検討する。又、必要に応じて関係諸機関との連携を深める。

- ・不登校傾向や生活・仲間関係で配慮を要する児童について、学校全体の課題として提起する。（全体会議で共通認識する）
- ・いじめ・不登校防止につながる（あいあいタイム）のカリキュラム企画
- ・不登校児童ケース会議
- ・松原市不登校児童・生徒等支援会議との連携
- ・いじめ・不登校の予防に関連した校内研修の企画
- ・いじめ予防の観点から児童会と連携した「いじめ防止全校集会」の開催や仲間づくり集中週間等の取組も検討したい。
- ・欠席日数の増加に注意して10日以上になった時点で情報交換を行い、支援会議で課題の分析と具体的な個別対応を協議したい。また欠席だけでなく遅刻の状況も正確に把握し、対象児童の情報収集を継続したい。
- ・不登校傾向の子どもに対して年度当初に学校全体で丁寧な引き継ぎを行い、個々の子どもの共通理解を深め、年間を通じて継続した指導・支援を行いたい。
- ・ケース会議やスクールカウンセラー、松原市子育て支援課等の関係諸機関との連携も含めた不登校生等支援会議での取組が重要である。不登校児童に対して具体的な支援目標を決め、全体会議で確認することで共通認識を深め、教員全員の支援体制で取組を進めたい。

6. 保護者・地域・関係諸機関とのネットワーク

保護者との連携

本校区の大きな特徴の一つとして、保護者・地域・関係諸機関とのネットワークの中で教育活動を進めていることが挙げられる。生活している地域の大人たちが、子どもを見守り、活動の場をつくり、頑張っている姿をみつけて、ほめてもらえるような広がりができつつある。日常の行事をはじめ、地域の行事にも保護者として積極的に参加し、運営にも関わっていただいている。子どもたちの活動する様子を見守り、交流する中で、保護者同士のネットワークも広がっている。また、年間何度か行われる授業参観の中でも、人間関係学科を参観し、一緒に体験するなど、子どもたちの成長のために学校と連携している。様々な学校や地域の取組については、毎年「学校教育自己診断」等のアンケートで保護者の意見を知ることで、よ

り良い教育活動を進めるために活用している。

松原七中校区地域教育協議会との連携

松原七中校区地域教育協議会(以下地域協)は、2000年度に立ち上げられた。もともとの校区青少年健全育成協議会(以下、育成協)からの活動を引き継ぎながら、学校教育支援・子育て支援の取組を強くしてきた。地域協に関わっている地域の大人たちで、子どもの頑張りをほめていこう、大人がみんなで見守っていることを伝えている。そのため、子どもたちの活動の場所をつくり、年間様々な行事を行っている。

松原七中校区国際文化フェスタ

地域協の行事の中で一番大きなものが、松原七中校区国際文化フェスタである。1995年度、当時の育成協に集う諸団体が、松原七中校区の国際理解と交流を深め、地域ネットワークづくりを目的として始めたもので、現在松原市内全中学校区で行われている校区フェスタの中でも一番早くスタートをきったのが松原七中校区である。校区の幼稚園・保育所、小学校・中学校やそのPTAはもちろんのこと、地域の自治体や子育てに関わる団体が一堂に会して行われる「地域連携のシンボル」のようなイベントとなっている。保育所や幼稚園、小学校の子どもたちにとってはそれぞれの取組の大きな発表の場となっている。また、中学生にとっては、スタッフとして地域の大人たちと一緒に活動する機会にもなっており、フェスタに参加する団体は、例年50団体をこえ、参加者も500人を超える大きな地域の祭りとなった。そして、そのフェスタを企画・準備過程も、各学校園の教職員・PTAと地域の大人たちのネットワークづくりのための貴重な場であり、子どもたちにとっても幼稚園・保育所から小学校・中学校、さらに卒業生も含めた縦の交流ができる場となっている。

その他の行事

クリーンキャンペーン（校区の清掃活動）

いきいきハイク（小学校合同の遠足）

スポーツ交流会（小学校合同のスポーツ大会）

子育て講座（関係諸機関等から講師に来ていただき、子育てに関わる講演会）

上記のように、地域のために子どもたちが役に立つような行事や、子ども同士や子どもと地域の大人との交流を目的とした行事、子育て支援の活動が行われている。また、地域協のネットワークの中には、中学校の「職場体験学習」の受け入れ先としても協力してくれている事業所がある。ま

た、松原七中の生徒会行事、「涼もう会」や「HOT ×ほっと会」への協力など、子どもたちからも地域のいろんな大人たちが関わってくれている様子が見える場面が多い。日常の地域協役員会の場では、毎回各校園での子どもたちの様子を交流する時間をとっており、「子どもの顔が見える活動」ができるようになってきた。また、地域協の役員経験者が地域協の幹事として役員に残ることで、これまで培ってきたネットワークと活動の内容を引き継いできている。

そんな中、今年度は地域協の全役員が集う予算総会の場で、松原七中校区の幼・小・中の教職員が一緒になって、ロールプレイ（劇）に取り組んだ。これは校区で進めている人間関係学科の内容を地域の方々に理解してもらう目的だったが、参加した地域の人からは、「劇に出てきた一家の様子が自分の家庭と重なって、考えさせられた」などの感想をいただき、校区の取組を知ってもらうきっかけとなった。

両小学校の土曜日の取組との連携

両小学校区には、土曜日の取組を中心に進める「放課後・土曜子ども体験活動推進事業」として、恵我小では「遊・遊土曜日」、恵我南小では、「エガナンサタデー」が取り組まれている。ここにも、各校区の自治会や松原市の青少年指導委員や体育指導員、そして地域の諸団体が日常の土曜日の子どもの居場所つくりを担ってくれている。

関係諸機関との連携

・スクールカウンセラー

児童・生徒や保護者のカウンセリングの場として小学校は月に1回、中学校は毎週各校を巡回しカウンセリングを行っている。

・松原市教育支援センター（チャレジルーム）

学校以外の居場所づくりとして、松原青少年会館に開設、担当者が派遣されている。

・松原市子育て支援課

配慮の必要な家庭について、継続的に連絡を取りながらサポートしている。

・富田林子ども家庭センター

ここ数年間に数件の具体的な事例について連携してきた。

・富田林少年サポートセンター

小学校高学年について「非行防止教室」を開催してもらっている。

・松原警察署生活安全課少年係

児童・生徒の生活指導の担当者との日常的な連携や、地域協での防犯教室など、情報交換を行っている。

・松原第7保育所・ピヨピヨ保育園

松原七校区中フェスタや学校行事への参加など、交流する場が定着してきた。

このように、松原七中校区の各学校園、地域・関係諸機関による横のつながりと、幼稚園・保育所・小学校・中学校という縦のつながりで、子どもたちの成長をいろいろな角度から支援するネットワークの広がりを大切にしながら進められている。